

2021年10月24日（日）メッセージアウトライン ヤコブの手紙2：1～13

聖書箇所：ヤコブの手紙2：1～13

タイトル：「最高の律法、自由をもたらす律法」

テーマ：イエス様を信じてから、未信者の時代には考えもしなかった信仰に対する神からのチャレンジがたくさんあるなあと感じておられる方も多いことでしょう。

ヤコブの手紙は、もともと各地に離散しているユダヤ人クリスチャンに対して書かれたものであることは以前お話ししました。

モーセの律法を誇りにしていた彼らが、今は律法の行いによってではなく、栄光の主イエス・キリストを信じる信仰によって救われている事実をヤコブは提示しつつ、彼らが幼い頃から教えられてきたモーセの律法を取り上げて、「えこひいきをする」という行為が、律法の中の最高の律法といわれるものに背く行為であり、同時にイエス様が、信じる者に与えて下さった自由の律法に照らしても罪であることをヤコブは示しています。

人を外見で判断して、大切に扱ったり冷たくあしらってしまう行為の裏には私たちの愛の欠如があるわけです。

「隣人を心においても行いにおいても本当に愛していますか」という主からの信仰のチャレンジを、真摯にうけとめてまいりましょう。

1. 「私たちの主、栄光のイエス・キリスト」への信仰とは？（2：1）

①栄光のイエス・キリストとはどういう意味？

- *イエス・キリストを外見だけで判断した人々
- *復活のイエス・キリストを目撃した人の判断
- *私たちにとってイエス・キリストは栄光に輝くお方か

②栄光のイエス・キリストを信じる者がしてはいけないこと——「えこひいき」

③えこひいきの具体例（2：2～4）

2. 神の視点からご覧になった貧しい人と富んでいる人（2：5～7）

①貧しい人を神が選ばれた理由

- *信仰に富ませるため
- *御国を受け継がせるため

②富む者の現実

- *貧しい者を虐げる
- *貧しい者を裁判所に訴える
- *ユダヤ人クリスチャンを苦しめる
- *キリストの尊い御名を汚す

3. 最高の律法と自由をもたらす律法

①最高の律法（2：8～11）

*レビ記19：18（隣人への愛）

②自由をもたらす律法（2：12，13）

*キリストの律法

*両者ともに黄金律とよばれるもの（マタイ7：12、ルカ6：31）

「人からしてもらいたいことは何でもあなた方も同じように人にしなさい。これが律法と預言者です。」

*律法と預言者とは聖書全体の教えのこと（マタイ22：35～40）

その中で一番重要な戒め（申命記6：5）唯一まことの神を愛すること

二番目の戒め（レビ記19：18）隣人を自分自身のように愛すること

4. 結論

私たちの心のあり方は必ず態度や行いやその生き方に現れます。

あわれみと言うのはあわれみを受けたことのある者が示すことの出来る行いです。

愛されたことのない者は愛することが難しいのです。たとえ親の愛や周りの人々の愛を十分に受けられなかった人でも、主イエスの愛は平等に注がれています。

私のためにもあなたのためにもイエス様はその命を投げ出して、私たちを罪と死とサタンから解放して、私たちへの愛を示してくださいましたよね。

永遠の滅びに向かっていた私たちを救うために神が示してくださった愛と憐れみを、私たちも他の人々に行いをもって表現していきましょう。

自由をもたらす律法のもとに置かれているクリスチャンは、イエス様を信じる信仰によって既に救われていますが、あわれみを受けた者として憐れみを示すことのない歩みをすれば、御国でその行いによって裁かれることとなりますよというのが2章13節の警告です。

神の愛と憐れみを受けた者としてもう一度隣人に対してどのように接しているかを心に留める一週間でありますように。